

史料紹介

『江藤哲蔵関係資料』翻刻（一）

江藤哲蔵関係資料研究会（海野大地・斎藤仁志・十河和貴・木多悠介・伊故海貴則・

俵木大知・那波宏哉・桂淳志・中村凌太郎・水谷春都）

『江藤哲蔵関係資料』（二〇二五年四月現在、私蔵）をとりあげ、複数回にわたって翻刻する予定である。本文書の由緒等については、本誌上での海野執筆論稿を参照されたい。

本資料の公刊にあたっては、江藤伸子・洋画氏のご厚意ご助力によるところが大きい。伸子氏のご好意にあずかり、海野大地と斎藤仁志とによって、私蔵された本資料の撮影を行った。そして海野を中心として、立命館大学の大学院生により江藤哲蔵関係資料研究会（メンバーは、海野大地、斎藤仁志、十河和貴、木多悠介、伊故海貴則、俵木大知、那波宏哉、桂淳志、中村凌太郎、水谷春都）を起ち上げて翻刻を進め、今回その成果の一端を公刊する運びとなった。

なお本研究会の運営にあたっては、オブザーバーとして故山崎有恒立命館大学教授には大いにご助力を賜った。山崎教授には、くずし字を読み合わせる場を温かく見守り、ご指導いただいた。本成果をお見せすることが叶わずまことに残念でならないが、些少なりとも故人への手向けとなれば幸いである。

〔凡例〕

- ・カタカナ記載はそのままとし、変体仮名はひらがなを用いた。
- ・合字はㄥ、ㄴを除きひらがなに、固有名詞をのぞく旧字は新字にあためた。
- ・本文中には適宜句読点を付した。
- ・本文中の意味不明瞭な箇所には、行間にママと付した。
- ・年月、人名、誤字脱字について、書簡内容から推定したものは、□をつけて挿入した。
- ・年月の不明なものは「」とした。
- ・封筒などの情報については、消印情報を含めて適宜冒頭に付した。
- ・破損などで判読困難な文字については□、判読不明な文字については■で示した。
- ・本文中に付された強調点は、傍点を付して示した。

〔翻刻〕

◆「一九一一年三月一七日付」江藤哲蔵（幹事長）宛元田肇書簡」（A三）

〈封筒表〉江藤幹事長殿

拝復、報告書残部落手仕候。今日も来客有之精々其間ニ閲見致居候も、明日午前ハ懸リ可申候。今日ハ総裁罷候は、宜シク御伝奉願候也。又九州大会之件ニ付、本部ニ欠席申訳無之宜奉願候。昨夜来少々風邪と下痢ニ悩まれ、殊更外出ヲ避居申候。右拝答如此。頓首

三月十七日夕

肇

江藤幹事長殿

◆「一九一九年二月三日付」故宗像政追悼会發起人宛徳川家達書簡」（A四）

（A四）

〈封筒表〉府下中渋谷四一四／江藤哲蔵氏方／故宗像政翁追悼会發起人各位御中／消印…□・□・□

〈封筒裏〉公爵徳川家達

拝啓、陳ハ来ル六日故宗像政殿一週忌ニ付、法要御當之趣御案内被下候処当日ハ無拠差支有之参会致兼候ニ付、不惡御承知被下度候。敬具

大正八年二月三日

公爵徳川家達

故宗像政殿追悼会發起人各位 御中

◆「一九一四年八月六日付」江藤哲蔵宛元田肇書簡」（A五）

〈葉書宛名差出〉東京下渋谷／江藤哲蔵様／芦の湯松坂屋／元田肇
／消印…三・八・六

〈葉書表〉

御地ハ定メて炎蒸甚敷事ニ遙察ス、此地冷如秋御来遊如何

〈葉書裏〉

虎視眈々旗朝沈、東欧風色転関心、廟談々々為何談、遙望鳳城座夜深

◆「一九一四年七月一日付」江藤哲蔵宛元田肇書簡」（A六）

〈封筒表〉府下豊多摩郡千駄ヶ谷穂田大原八七／江藤哲蔵殿／御案内／消印…三・七・一

内／消印…三・七・一

〈封筒裏〉麹町紀尾井町入／元田肇／消印…三・七・一

拝啓、暑氣漸相加候処益々御清康奉賀候。陳者久々ニて御高話承り度、粗末ナル設致置候間、来七月三日午後四時過今赤坂三河屋ニ御光来被下度切望仕候。右御案内迄。勿々頓首

七月一日

元田肇

江藤代議士殿 貴下

◆「一九〇七年二月七日付」江藤哲蔵宛長谷場純隆書簡」（A七）

〈封筒表〉京都大学病院第一病舎内眼科屋／江藤哲蔵殿／印（東京市麻布区飯倉狸穴町五拾九番地／長谷場純孝）／消印…四〇・一・七

一・七

〈封筒裏〉十一月七日発／消印…四〇・一一・八

芳書拝読仕候。御健昌卜存居候処眼疾御煩ニテ京都へ御入院之旨意外
千万御痛心之程奉察候。折角御加養速ニ御平快を奉折候次第ニ御坐
候。高田〔露カ〕氏ハ左之書状到来、彼ノ地〔熊本カ〕之事情モ詳
知スルヲ得候儀ニ御坐候。小生近頃少閑ヲ得テハ例之狛獵へ樂ニ出掛
居候事共ニ御坐候。追々議會の期も近寄来候ニ付、早目御帰京相成候
様御待申上候。不取敢貴酬旁御見舞迄如此御坐候。拝復

十月七日

江藤賢台 侍史

純孝

追啓、石嶋元氏より屏風ヲ鉄道便より送ルとの旨通知アリ、い細貴君
より承レトアリシモ未タ該品ハ到達セス、万御帰京拜晤上ニ承度御坐
候。

◆一九〇七年九月八日付「池松・江藤宛長谷場純隆書簡」(A八)

〈封筒表〉小石川区掃除町三三江藤哲藏殿／親展／消印…□・□・八

〈封筒裏〉印(東京市麻布区飯倉狸穴町五拾九番地／長谷場純孝)

／消印…四〇・九・□

拝啓、已ニ元田より御承知御坐候半、熊本ニ対シテハ二、〔百円カ〕
支出之事ニ決定シ、此以外ハ絶対不可能ト確定ヲ經候様子ニ御坐候。
是非ナキ次第ニ御坐候間、右ニテ充分御尽力大勝奉祈候。小生明早天
出立石川へ向ひ候筈、取急き如此。匆々

九月八日夜

純孝

池松様

江藤様

◆一九一九年四月三〇日付「江藤哲藏宛村田虎次郎書簡」(A九)

〈封筒表〉東京市外中渋谷四一四／江藤哲藏様／進展／消印…八・

四・三〇

〈封筒裏〉四月三十日／大津市／村田虎次郎／消印…八・五・一

肅啓、愈御清祥奉賀上候。過日来ハ大岡議長御来県、我大津市ハ不及
申長浜町にても演説会ハ大盛會ニテ好況ニ有之。厚御礼申上置候。森
知事も榮転相成、堀田氏後任として赴任相成、目下地方官會議中東上
致居候。同氏ハ森氏之如き性質之人ニハ無之候得共、能く井上君と打
合之上為県治被尽候様ニ直間接ニ御含め置被下度頼上申候。余情後便
ニ可申謝候。早々拝白

四月三十日

村田虎次郎

江藤尊台 侍史

◆「一九一九年二月二日付「江藤哲藏宛松浦厚書簡」(A一〇)」

〈封筒表〉小石川区表町百九番地／江藤哲藏殿／親展

〈封筒裏〉二月二日／松浦厚

前略、唯今於当莊承知候。藏原〔惟郭カ〕氏ハ昨夕の急行にて愈歸熊
の途ニ上り候よし果シ〔て〕然るや、過日の話よりハ一日後れ候。例
の桜田俱樂部会へ参られ候よし、此れハ無用と存候。熊本ニ於て同氏
帰後の様子篤と御探偵御報告被下度希上候。先夜篤と氏へ申望候事

故、心得居られ候事と存候。十二分の注意必要と存候。右ハ何も一寸申上置度如此候也。

二月二日

厚

江藤兄 研北

◆一九一九年六月二五日付「竹崎隼雄宛林田亀太郎書簡」(A一)

〈封筒表〉市外中渋谷四一四／江藤哲蔵氏方／竹崎隼雄様／消印…

八・六・二六

〈封筒裏〉赤坂区田町七ノ三／林田亀太郎

江藤哲蔵氏御病氣養生叶はせられず、遂に御逝去相成候趣拝承、国家の為め哀惜に不堪御一門の御愁傷如何計りかと拝察仕候。早速参上御悔申上べくの処、小生過日来肺炎にて龍臥致居高熱の為め面会読書謝絶にて、御不幸の儀本日始めて承知、不取敢代書させ御悔み申上候。何れ快方に向ひ候は、拝趨御悔致すべく候。先は不取敢以書中御悔申上度如此御座候。

六月二十五日

林田亀太郎

竹崎隼雄様

◆一九一五年三月二六日付「熊本政友会支部宗像・江藤・原田宛林田亀太郎書簡」(A二)

〈封筒表〉熊本市山崎町／政友会支部／江藤哲蔵殿／親展／消印…

四・三・二六

〈封筒裏〉内幸町二ノ一／林田亀太郎

拝復、延期願之件ニ関する御書ハ下生旅行中ニて拝見後れ、而して先方へ申込たるときは既ニ却下となりし後なりしなり。残念此事ニ候。昨日之結果如何御案し申上候。頓首

三月廿六日

林田生

宗像老台

江藤老台

原田老台

◆「」年十月二二日付「江藤哲蔵宛林田亀太郎書簡」(A三)

〈封筒表〉江藤哲蔵殿／親展

〈封筒裏〉林田亀太郎

郵船会社ヨリノ災害救済会へノ寄附金案外少カルベキ模様トノ風評アリ、益田孝氏ヨリ老兄ニ乞フニ左ノ事ヲ以テセントス。
元田大臣ヨリ可成多額ノ寄附金ヲ為セ(願クハ五万円)、ト近藤及加藤ニ御申付願フ。御承諾願度候。因ニ不日宮内省ヨリ八十五万円御下賜ノ風評アリ。

十月廿二日

林田生

江藤兄

◆一九〇五年一月一三日付「江藤哲蔵宛林田亀太郎書簡」(A四)

〈封筒表〉小石川区表町一四九／江藤哲蔵殿／拝復

〈封筒裏〉内幸町二ノ一／林田亀太郎／消印…三八・一・二三

拝復、選挙法ニ関スル演説筆記ハ一読シ候処、訂正ヲ要スヘキ箇所多々有之。加之尚添加シタキ事件モ有之、旁々多少時日ヲ要シ候間、此段御了承願度候也。

一月十三日

林田生

江藤老台 玉几下

◆一九一八年四月七日付「江藤哲蔵宛小川平吉書簡」(A一五)

〈封筒表〉豊多摩郡渋谷中渋谷／江藤哲蔵殿／消印…□・□・七

〈封筒裏〉東京市麹町区内幸町一丁目五番地／小川平吉／消印…

七・四・七

拝啓、兼々御打合申上候唐紹儀氏並ニ張繼氏招待会ハ、来る十四日午後五時半より帝国ホテルニ於て開催致し候間、何卒御出席被下度奉願上候。草々拝具

四月七日

發起人 岡崎邦輔

床次竹二郎

小川平吉

江藤哲蔵殿

◆一九一八年七月二日付「政友会明治会宛小川平吉書簡」(A一六)

〈封筒表〉芝公園地紅葉館氣付／明治先生政友会御中／消印…七・

七・二二

〈封筒裏〉東京市麹町区内幸町一丁目五番地／小川平吉／消印…

七・七・□

拝啓、本日之水野内相歓迎会ニハ是非出席仕度候へ共、旅行之予定變更難致候ニ付、乍残念欠席仕候。賓客并ニ諸君ニ宜敷御致声被下度候。過日来之出兵問題ニ関し、某将ハ大息して曰く、「嗟呼老人遂ニ大事を決行し難し、壯者ニ非んば此大帝国を負担するに足らず」と。蓋し我邦之現状上下共に鬱屈沈滞、毫も通達進暢せざるを慨するなり。古語に曰く、「周ハ旧邦なりと雖も、其命維れ新なり」と。是れ實ニ我国之今日ニ適中せり。而かも維新之命ニ副はんとすれば、勢ひ諸兄之努力に俟たざるを得ず。茲ニ特ニ水野君并ニ明治会諸君之健在を祈申候。草々敬具

七月廿二日帰去来莊ニ歸るに臨みて

小川平吉拝

明治会御中

◆一九二二年二月三日付「江藤哲蔵宛小川平吉書簡」(A一七)

〈封筒表〉東京市芝区立憲政友会本部／江藤哲蔵様侍史／消印…

一・一二・六

〈封筒裏〉東京市麹町区内幸町一丁目五番地／小川平吉／消印…

一・一二・六

小生も公判中途一ト先帰京之見込ニ御座候。多分十二日入京之筈

ニ御坐候

拝啓、愈御清適奉賀候。扱先般御話之古今島ハ宋氏自身築堤可致見込之由ニ有之、右ハ先年三千余円ニテ買受候私有物ニテ既得権あるものなれ共、築堤ハ面倒ニ付き放棄之見込なりしを、過般技師実見の報告

二より不日着手之事ニ決心せし由ニ御坐候。右当用而已。草々頓首
十二月三日

江藤老台侍史

平吉 拝

(後文)

昨夜号外にて内閣総辞職之報ニ接し候。これ迄ハ予想之通りニ有之候ハ、時節柄容易ニ御聴許も如何ニ候ヤ。サテ此場合が則ち大切之場合ニ可有之、如何なる調停あるも陸軍独善之危険思想排斥ハ断乎決行を要し候事と存候。然る時ハ彼等も始めて自ら悟るニ至るべく、将来国家之至幸ニ御坐候。もし此際時局を穏和ニ解決するニ急ニして、幾分なれ彼の危険思想を認容致候ハ、蒸気ハ変して雲となり更ニ進で雨となり水となり国家を危殆ニ陥れ、遂ニ畏れ多くも至尊に迄累を及ぼすに立至り可申候間、今日以後調停之最後の幕ニ於て一步も譲らぬかが最も肝要と存候。依て数日前、野田幹事長ニ於て「壇の浦をシツカリ頼ム」と打電致候次第ニ御坐候。陸軍之傍若無人之態度中ニハ、勿論退讓之意味充分ニ包含有之。彼ハ恐喝して陸軍之勢力を認めしめ、将来を確約するの趣意ニ外ならず、鼓を以て進むの時ハ已ニ座を以て退くの用意なる事明白ニ有之候。今回ハ国民と共ニドコ、迄も彼等を覚醒せしむるが憲政之為最必要と可有之、又陸軍之為ニも結局ハ有益ニ可有之と存候。何卒御奮励御努力願上候。野田君長島君坂東君柳田君ニモ右御伝被下度。且宜敷御鳳声願上候。

江藤老台侍史

平吉 又拝

◆一九一三年一月二四日付「江藤哲蔵宛小川平吉書簡」(A一八)

《葉書裏》 東京市芝公園政友会本部／江藤哲蔵様／消印…二・一・二四

《葉書裏》 かこしま山城屋方小川平吉

追想、曾遊遙拳大白祝御健康。小弟渡鮮之途次、弥諸用にて訪鹿兒本夕出發可致候。諸兄ニ宜敷御坐候。

◆一九一七年七月一二日付「江藤哲蔵宛横田千之助書簡」(A一九)

《封筒裏》 渋谷町中渋谷四一四／十六日六時蜂龍／江藤哲蔵殿／消印…六・七・〇

《封筒裏》 東京市麻布区市兵衛町二丁目一番地／横田千之助／電話芝九〇番／大正六年七月十二日／消印…六・七・〇

肅啓、暑氣相加り候処益々御多祥奉賀上候。偕本月十六日午后六時閑談旁粗餐を呈し度候間、御多忙中乍恐縮 京橋区出雲町蜂龍方へ御光来奉願候。再拝

七月十二日

横田千之助

江藤哲蔵様

追而、御同席之方々は、小生政友会本部幹事在職中の幹事長及同僚現政友会本部幹事の人々に有之候。御浴衣にて御入来を希望仕候。御手数ながら十四日迄ニ御返事賜り度候。

◆一九一八年五月二四日付「江藤哲蔵宛横田千之助書簡」(A二〇)

〈封筒表〉府下中渋谷四一四／江藤哲蔵様／消印…七・五・二四

〈封筒裏〉五月廿四日／東京市芝公園五号地立憲政友会本部内／横田千之助／消印…七・五・二四

肅啓、行違ヒ御煩シ申上恐縮々々、拝光之機ヲ得テ御電申上ベク候。
再拝

五月廿四日

千之助

江藤大兄

御病状如何御案し申上候。切ニ御自玉ヲ奉祈候。

◆一九一八年五月二二日付「江藤哲蔵宛横田千之助書簡」(A二一)

〈封筒表〉大阪市金森旅館／江藤哲蔵様／急親展／消印…七・五・

二二

〈封筒裏〉東京市麻布区市兵衛町二丁目一番地／横田千之助／電話
芝九〇番／大正六年五月廿二日／消印…七・五・二四

肅啓、北信、四国中国等之大会御巡遊奉謝候。愛知ハ勝ツ戦ニ失敗セシハ全ク小生ノ遺算ニ基ク点有之候。補者大島氏及黨員各位ニ不相済次第恐縮罷在候。名古屋モ跡カ三輪氏ヨリ苦情出テ紛紜多シ、昨夜廣岡幹事出發善后策ニ從事中ナレトモ、小生ノ考ニテハ貴兄ヲ煩ハサスンハ如何カト存シ、総裁ニ相談候所総裁モ貴兄ナレハ申分ナシ、依頼シ呉レヨトノ。就テハ急ニ名古屋ニ御立寄、三輪氏初メ支部員各位ニ御会見事情御聴取可然、御裁判被下度願上候。貴兄ヨリ総裁ヘノ御手紙ニ依レハ御病氣之由、小生一個ノ考ニテハ貴兄萬一名古屋行

「カ」之為メ、御加養后ニテ病状ニ異変アル様ニテハ大事ニ付、此点御懸念之場合ハ勿論御差扣ヘ願上度。何分之儀電報ニテ御知セ願上候。再拝

五月廿二日

千之助

江藤大兄

書意ヲ不悉惡御推読ヲ乞フ。

◆「一九一八年五月二四日付「江藤哲蔵宛横田千之助書簡」(A二二)

〈封筒表〉江藤哲蔵様

〈封筒裏〉東京市芝公園五号地立憲政友会本部内／横田千之助

肅啓、麻布市會議員之件ニ付、同志赤井幸夫、津田龍丸両氏紹介仕候。北里、塩原(又策)両氏ノ件御心配願上候。右ハ森久保、小泉清諸氏ノ願ヒニヨリ、総裁ヨリ特ニ貴兄ヲ煩ス様、小生ニ下命アリタル事項ニ候。御含被下度候。再拝

五月廿四日

千之助

江藤大兄

◆一九一七年二月五日付「江藤哲蔵宛横田千之助書簡」(A二三)

〈封筒表〉相州湯ヶ原中原旅館にて／江藤哲蔵様／親展／消印…

六・一一・五

〈封筒裏〉東京市麻布区市兵衛町二丁目一番地／横田千之助／電話
芝九〇番／大正六年十一月五日

肅啓、其后御症状如何、日々御快復近々御活動ニ適セラル、トト樂ミ居リ候。領袖會議ハ今日之予定ニテハ、十四五日頃ニ相成ヘキカ（總裁之帰京ハ十二日之予定也）、其節ハ電報ニテ申上ヘク候間、可成御出席奉願候。為邦家御自玉ヲ奉祈候。再拜

十一月五日

千之助

江藤老兄

◆一九一七年一月七日付「江藤哲蔵宛中橋徳五郎書簡」(A二四)

〈封筒表〉北區堂嶋中通自由亭／江藤哲蔵様／必親展／消印…六・

一・七

〈封筒裏〉天王寺怒田院町／中橋徳五郎／消印…六・一・七

拝啓、過日ハ態々之御来遊何之風情モ無之欠礼致候。御宿之御伺申上度存居候処、■此取混今ニ御礼行、野口遵君ハ多分今明之中東京ヨリ帰阪之豫定ニ御坐候。明八日二ハ午後ヨリ窒素肥料會社重役會有之、其二ハ同君出席候約束ニ御坐候。其節小生ヨリ同君ニ協議御面會之約束可申上候。勿々不寧

金澤米太郎君只今来訪。同氏モ孰今明中ニハ御宿御訪問之事ト存候。

大正六年一月七日

中橋徳五郎

江藤老台 机拝

◆一九一五年九月一日付「江藤哲蔵宛望月圭介書簡」(A二五)

〈封筒表〉東京中渋谷／（衆議院議員）江藤哲蔵様／親展／消印…

四・九・一一

〈封筒裏〉九月十一日／廣島市中島／沼田方／望月圭介／消印…四・九・一二

拝啓、朝夕大分涼しく相成候処、愈々御安静奉敬賀候。過日来■承れる之御■御快方之御事と萬察仕候。今回総才当地御立寄に關しては、多大之御配慮を煩わし結果如何かと案居候処、想外之盛況にて一日満善仕居候次第御坐候。茲に厚く御礼申述候。却說同志會は黄白之卑策に依り候補之買収、彼是にて怪しからぬ一事而已衆惡を尽し居候。日夜画策相立候へ共、非力之少子一人にて誠に悲惨を極め居候。就而は他に例なくんは無是非次第に御坐候へ共、若し一例にても支弁候様之事あらは、急御手配御被成下候様御願申上候。戰時多端之折柄真之要旨まで、以早々書ヲ得貴意申度。書外余情拝晤を期可申候。勿々頓首

十〔九〕月十一日

圭介 拝

江藤大兄 侍史

◆一九一六年七月四日付「江藤哲蔵宛望月圭介書簡」(A二六)

〈封筒表〉東京市外中渋谷／江藤哲蔵様／侍史／消印…五・七・二

〈封筒裏〉廣島県豊田郡東野村／望月圭介／消印…五・七・四

拝啓、愈々御清光奉敬賀候。扨先般老母死去之節は御懇篤なる御弔詞に御鄭重之御供物御贈與被下難有奉謝候。何れ上京拝趨之上厚く御禮可申上候へ共、先ハ右以書中如此に御坐候。 敬具

七月二日

江藤尊台 侍史

望月圭介

◆一九一七年一月二日付「江藤哲蔵宛望月圭介書簡」(A二七)

〈封筒表〉相州湯ヶ原中西方／江藤哲蔵様／侍史

〈封筒裏〉十一月三日／東京芝区田町九／望月圭介／消印…□・一

一・四

拝啓、日々御快氣被為御赴候由例なく慶事なりと相喜居候。一度御見舞申上度相望居候へ共、本日も無人不相変佐〔些カ〕事に追われ居候。御察被下度。何れ其内を期可申、然し函嶺方面へ御同伴チト危居候。未タ鬼門を去らずと存居候。呵々時下申上迄もなく御自重可被遊切に祈上候。朝■の■なく宜敷々々被為伝可被下、先ハ右以早々書御見舞まで得貴意度如此に御坐候。敬具

十一月二日

圭介 拝

江藤賢契 侍史

◆一九一六年八月二〇日付「江藤哲蔵宛望月圭介書簡」(A二八)

〈封筒表〉大坂市中之島自由舎／江藤哲蔵殿／親展／消印…□・

八・二〇

〈封筒裏〉封／上二九八〇／本八六三／東京市芝公園五號地立憲政

友會本部／望月圭介／八月廿日／消印…五・八・二一

拝啓、御不快之電報にて一日誠に案居候。速に御快愈御帰京待居候。

扨島根戦に付園山勇氏今朝上京委曲聴取致候。恒松氏今夜着京之筈最

早余日も無之処二候間、策戦も敏速相講申度存居候。反対派ハ種々二候補物色中なるも今日迄決定之報に接せず候。右之次第二候へハ一時も早く御帰京熱望候事二候。今朝松野兄より電話にて貴命迄賜り右送り方被申越候間、小包にて発送致候。御掌被下度候。右用向以早書御見舞迄、俄に申上度如此二候。勿々頓首

八月二十日

圭介

江藤賢契 侍史

◆一九一八年九月二七日付「江藤哲蔵宛書簡」(A二九)

〈封筒表〉東京市外中渋谷／江藤哲蔵様／親展／消印…七・九・二七

拝啓、出立之際は態々御見立被下御厚情奉謝上候。昨日〔午〕后字品より乗船、今晚当門司着后四時浦港へ向ケ直行之事に候。扨原内閣之成立ハ已に豫定之如く相運候ハ、当地之事として茲に願申上置度ハ、廣島県警察部長本間利雄、コレハ近來珍ら敷男にして才あり氣あり。若し大島直道氏榮轉すれば、其跡釜に然らずんは警保局書記官等最適任にして、我党の爲にも将又内閣之爲にも至極之事に思居候。本間の事ハ誰に御聞被下候ても反対党ならざる限は其不適を申者ハ有之間布、貴契は総裁の信任も厚く又有力なる助言者たらざるべからざるの地位にあり、宜敷御考慮と善弁を乞候次第に候。出帆間際にて真に御願迄、要旨如此に御坐候。敬具

◆一九一八年一〇月九日付「江藤哲蔵宛望月圭介書簡」(A三〇)

〈葉書宛名〉東京市外中渋谷／江藤哲蔵老兄／十月六日后十時／ブラ

ゴエンチエンスクニテ／望月圭介(志賀)／消印…七・一〇・九

〈葉書表〉

拝啓、愈御安健奉賀候。廿九日浦塩出発ノ際原内閣ノ成立ヲ承知、ニコリスク、ハバロウスク、等ヲ経当地迄前進仕候。両三日中黒龍艦ニテチタニ向ヒ可申、到ル処物珍ラシク愉快之旅行ヲ喜居候。帰朝拝晤ヲ何ヨリノ楽ニシテ取紛中敬意ヲ表シ候。頓首

〈葉書裏〉

コレハハバロフスクの公衆「カ」にしてアムール河に臨み極めて情景善き処に候。出鼻の先に黒龍艦隊の根拠地あり、重要な地点たるを失わず、ムラビエーフの銅像は眼鏡に地図を手にし、黒龍州を睥睨する処当時の雄図を忍ばしむ。浦港よりブラゴエン迄四百里、ハバロフ迄式百里（「数文字判読不明」）。

◆一九一三年二月一五日付「江藤哲蔵宛天津政友会支部書簡」（A三二）

〈封筒表〉 東京市木挽／通信省にて／江藤哲蔵殿／消印…二・一

一・一三／二・一一・一五

〈封筒裏〉 滋賀県／大津政友会支部

亀子二代リテ、

君ひとり夢し出ましてかれむなるむかしからの月を見るかな、我等此度湖南へ会し、図らすも君ニ情ある売人亀子の述懐を聞て転し候。同情ニ堪へず、談纏て句を成す。不取敢書して吾兄の坐右ニ報す。

前十二字

春曙

次の五字

硯海〔大岡育造カ〕

次の七字

森川〔森川源吾カ〕

次の七字

菊雄

江藤吾兄 坐下

われ一人 世ニ出でしとて 何かせん 昔の月ぞ 恋しかりける

亀子より

江藤君へ

◆一九一八年五月二二日付「江藤哲蔵宛広岡宇一郎書簡」（A三二）

〈封筒表〉 大阪西区／金森旅館／江藤哲蔵様／消印…七・五・二三

〈封筒裏〉 名古屋支部中／広岡宇一郎／五月廿二日／消印…七・

五・二三

啓上、此中来御直諭之処御苦勞之段深奉謝候。玆今朝新聞にて承知仕候処、御病氣にて御滞坂御静養中之趣果して事実ニ候哉、甚不堪懸念候。万一所報之通ニ御座候ハ、十分御養生被下度切ニ希望仕候。何れとも御近況御洩し被下候ハ、大幸ニ候。小生今夕発帰京可仕、今次之一戦失敗ニ終リ候義申訳無、御詳細御帰京之上拝芝可申尽、右計得貴意候。草々敬白

五月念二

広星陵

江藤先兄

◆一九一六年八月二二日付「江藤哲蔵宛広岡宇一郎書簡」(A三三)

〔封筒表〕大阪中之嶋／外山修造様方／江藤哲蔵様／消印…□・

□・二二

〔封筒裏〕八月廿二日／広岡宇一郎／消印…五・八・二三

拝啓、去日ハ失敬仕候。其後御滞坂中御病気の趣、尔来御容体如何ニ候哉、漸次御快方とハ存候得共、十分御加養千万攸祈候。御不在中一般常務ハ夫々処理致居候。唯嶋根補欠選挙ハ先刻申上候通、期日漸次切迫愈恒松〔隆慶〕氏立候補確定、本人有志家上京種々協定の結果、今夕帰県之筈ニ候。此間各惣務特ニ岡崎〔邦輔〕君大抵毎日出勤相成、先々処理致呉候。外各幹事も全部相揃居候ニ付、大略方針決定、応援弁士等選定中ニ御座候。此外北海道議員ニ対スル与党の奪取運動有之、事情十分分明不致候得共、一段之留意を要するを存居候。旁々種々可要御高慮件可有之と被存候間、申迄も無御座候得共、御快方次第御帰京被下度希望仕候。雑多の要件有之候得共、一々筆紙ニ難尽、殊ニ岡崎君よりも手紙差上候趣ニ付、茲ニ相略申候。貴下宛書状数多有之差支無之被存候分ハ開封、其他ハ其俣御預申置候。此中来一度御見舞可申と存候得共、休日多忙遂ニ今日ニ至り候。御高恕可申候。不取敢右計急啓候也、早々

八月廿二日

広岡宇一郎

江藤老契

◆一九一七年七月一八日付「江藤哲蔵宛広岡宇一郎書簡」(A三四)

〔封筒表〕東京渋谷／江藤哲蔵様／消印…六・七・一七

〔封筒裏〕金城下支部中／七月十七日／広岡宇一郎／消印…六・

七・一八

啓上、御老人様其後御容体如何ニ候哉、昨夜小生出発の際の御模様にてハ漸次御輕快之御事と存候得共、何分昨今之炎暑ハ格別ニ付、万御油断有之間敷被存候得共、十分御看護切ニ希望仕候。書余帰京拝芝可申尽不取敢一筆御見舞申上候。草々敬白

七月十七日

広岡宇一郎

江藤哲蔵様

◆一九一六年三月二二日付「江藤哲蔵宛大岡育造書簡」(A三五)

拝啓、来一日小生等之■■■書の為送別の小集相催候間、当日午後三時より拙宅へ御来臨被下度御案内申上候。草々不具

三月卅一日

育造

江藤賢台 侍史

追而案内状差出候。先日山本邸参集、諸賢の外原総裁望月幹事に御座候。

◆一九一二年六月七日付「江藤哲蔵宛小泉策太郎書簡」(A三六)

〔封筒表〕青山穩田八十七／江藤哲蔵様／消印…四五・六・七

〔封筒裏〕小泉策太郎

過日来一応得貴意度存居候へ共御旅行中と承り差扣へ居候。最早御帰

京に候哉。扱鈴木辰次郎氏辞任ニ付、大分誤解曲解の悪説も行はれ候ニ付、一応事件の内容と経過とを申上げ政友間の誤解を出来得る限り避け申度、且又小生の進退に就ても御相談申上度候間、明日いづれにてか拝眉の機を與へられ度、但し本部へは行くを好まず候間、他所にて願上候。朝の内電話下され候ハ、御指図通り罷出可申候。

小泉生

江藤老兄 貴下

◆一九一八年四月五日付「江藤哲藏宛小泉策太郎書簡」(A三七)

〔封筒表〕市外中渋谷四一四／江藤哲藏様／消印…七・四・五

〔封筒裏〕小泉策太郎／東京、四谷、本村町／消印…七・四・五

拝啓、御約束申上候白隠語録〔録〕全集送達仕候。然るに此本昨年九月之風水害ニ金澤別荘に在りて一時泥水の浸す所となりしよしにて只今取出し見るに大分汚損いたし居候ニ付、更らに新らしきものと思ひ候へ共、市上ニ沢山の売本ありて別段珍奇とするに足らざる故、当座の御用に適せば可ならんと只寸志を表するに止め候。抱朴子千金方など支那の書物も所蔵いたし居候間、御思召次第御らんに供し可申候。右而已 拝具

四月五日

弟 三申

江藤老兄 貴下

◆一九一五年八月一〇日付「江藤哲藏宛野田卯太郎書簡」(B一〇)

〔封筒表〕東京芝公園立憲政友会本部気付／江藤哲藏殿／親展／消

印…四・八・一一

〔封筒裏〕京城西北門／野田卯太郎／消印…四・八・一三

拝呈、今度の満蒙は素より満蒙開発の爲めニ有之、然レトモ満蒙を開蒙するニは、今一段之權利即実力を要する事勿論なり。今日の儘ニては何事も出来不申、唯大連地方に於ては多少の事可得出来候得共、満蒙は普蘭店以外の事たるは既ニ御承知の通りニ可有之候。目下之急務は日露同盟満蒙解決之レナリ、我党の立場としては、是此之問題を提げ之か成就を期待する事、帝国ニ尽す最善之方法国家百年の大計なりと存候。小生の意見は、京城日報へ其最小部分極穩かニ其道行を申述置候。其日報は、小川幹事長宛送付致候由ニ付、小川君等ト御相談之上、可然御採否被下度希上候。此段先は如斯ニ御坐候。勿々不一

八月十日

野田生

江藤老兄 坐下

◆一九二二年一〇月二九日付「江藤哲藏宛小久保喜七書簡」(B一一)

〔封筒表〕大坂中の島式丁目外山様方／江藤哲藏様／消印…一・一

〇・□

〔封筒裏〕廿九日夜／電話印／印…東京四谷右京町拾壹番地／小久

保喜七／消印…一・一〇・三一

拝啓、長々の御旅行嚙々御疲労之事と奉察候。陳者貴殿の御帰りを待ちて一会開き度あり御待ち居り候間、一日も早く御帰京被下度此以願上候。早々不一

十月廿九日

小久保喜七

江藤様 侍史

◆一九一三年一〇月二五日付「江藤哲蔵宛小久保喜七書簡」(B二二)

〈封筒表〉府下千駄ヶ谷穩田八七／江藤哲蔵様／消印…二・〇・〇

〈封筒裏〉十月廿五日／電話印／印…東京四谷右京町拾壹番地／小久保喜七／消印…二・一〇・二五

拝啓、御就官を祝し候。元田氏も中々見上げたる果斷の人物に御座候。何れ例の連中にて祝宴相開き可申上候得共、不取敢喜の余り書中を以て祝詞申上候。頓首

廿五日

小久保喜七

江藤様

◆(一九一七)年九月二二日付「江藤哲蔵宛井上孝哉書簡」(B二三)

〈封筒表〉東京赤十字病院／江藤哲蔵殿／消印…〇・九・二二

〈封筒裏〉九月廿一日／富山県官舎／井上孝哉／消印…〇・九・二三

拝啓、其後ハ甚御不沙汰仕候。陳者、新聞紙上にて承候得は、尊台には沖繩より御帰京御発病の由、胆石病と承知仕御難儀の事と拝察仕候。目下入院御治療の由、速に御全癒被遊候様奉祈候。先ハ右御見舞申度、勿々敬具

九月廿一日

井上孝哉

江藤老台

◆「」年七月二五日付「江藤哲蔵宛井上孝哉書簡」(B一四)

〈封筒表〉淑明女学校内／江藤哲蔵殿

〈封筒裏〉七月廿五日／谷町／井上孝哉

拝啓、炎暑ノ砌益御清康奉賀候。陳ハ御視察ヲ機トシ御高話拝聴仕度、猶御迷惑ナカラ幾分御聴取ヲモ相願度、岡田君ヲ以テ御頼申上候処時分柄ノ御厭モ無之、御聴容被成下候由難有存候。就テハ本日午後六時花月楼へ御光臨被下度、御話相手ニ岡田君ニモ御来駕ヲ願ヒ置候間、御承知被下度。此段御案内申上候。勿々敬具

七月廿五日

井上孝哉

江藤哲蔵殿

◆一九一四年三月二九日付「江藤哲蔵宛望月圭介・島田敏雄書簡」(B一五)

〈封筒表〉渋谷四一四／江藤哲蔵様／四日五時紅葉館／消印…三・

三・二九

〈封筒裏〉四月三十日／大津市／村田虎次郎／消印…〇・三・三〇

拝啓、御高話拝聴旁粗餐差上度候間、御繁忙中恐縮之至リニ候へ共、来る四月四日午後五時より芝紅葉館へ御来臨被下度。此段御案内申上候。敬具

三月廿九日

望月圭介

嶋田俊雄

江藤哲蔵様

◆一九一五年八月一〇日付「江藤哲藏宛島田敏雄書簡」(B一六)

〔封筒表〕府下豊多摩郡渋谷町中渋谷四一四／江藤哲藏殿／親展／
「借用証書」／消印…四・八・一

〔封筒裏〕「印」東京市下谷区入谷町三百十一番地／島田俊雄

拝啓、先般御下命の証書別紙の通り相認め見申候。一応御覽被下度、
若し文言其他日時等内容ニ関し御不満足の点有之候ハ、御遠慮なく
御申聞被下度。先ハ乍延引右得貴意度。早々不尽

八月十日

嶋田生

江藤様

(別紙)

金子借用証

一金壹千円也 但シ利子年

右金子借用候処実正也。然ル上ハ御請求ニ従ヒ何時ニテモ元利金
合計返済可致候。仍テ為後日証書一札差入置候也。

大正四年八月十日

東京市下谷区入谷町三百十一番地 嶋田俊雄「印」

江藤哲藏殿

〔以下余白・斜線〕

◆一九一三年一月二八日付「江藤哲藏宛渡辺修書簡」(B一七)

〔封筒表〕府下豊多摩郡千駄谷穩田八七／江藤哲藏殿／親展／消
印…二・□・二八

〔封筒裏〕封／東京市麹町区平河町六丁目二十番地／渡辺修／大正
二年一月廿八日

拝啓、小生今夕出発之積ニテ諸事準備致居候得共、昨日来風邪気味ニ
付、為念過刻本部より帰宅後醫診ヲ受候処少々発熱之気味も有之、大
患後二付断シテ旅行見合セトノ戒告ニ有之。小生も平素之身体トモ違
ヒ恐ロシク相成候間、不得已其意ニ従ヒ出発相見合候。尤も直ニ電報
又ハ書面ヲ以テ松山ノ岩崎野水今治ノ阿部等へハ委曲申遣置候間、小
生帰松不致候トモ別ニ差支ハ無之筈ニ存候。右御承知置被下度候。本
部へも右之趣電話致置候得共、為念以書中右申上度如此候。早々頓首
一月廿八日夜

修

江藤老台 侍史

◆一九一五年一〇月八日付「江藤哲藏宛渡辺修書簡」(B一八)

〔封筒表〕府下渋谷、中渋谷四一四／江藤哲藏殿／親展／消印…
□・□・□

〔封筒裏〕封／東京市麹町区平河町六丁目二十番地／渡辺修／大正
四年十月八日／消印…□・一〇・九

拝啓、益御壮栄奉賀候。先般は遠路松山へ御出張被下、以御蔭大会も
無事且盛大ニ相済奉感謝候。帰京後御挨拶ニ拝趨可仕筈之処、帰京
早々持病之喘息起リ久敷引籠居候間、乍思欠礼ニ打過候。御海恕被下
度候。

扨大会之節松山ニ於テ御演説相成候米価ト内閣之関係(即西園寺山本
之内閣時分ニハ米価高ク、桂大隈内閣ニハ米価安キ事)ニ付、表ノ如キモ

ノヲ御読ニ相成候様存候処、もし右ニ関スル参考書類有之候ハ、乍御手数暫時御貸与被下候事相叶間敷哉奉願候。右以書中御依頼申上度如此候。小生病氣大ニ快方ニ相成、折々外出も致候様相成候間、何レ其内御伺可仕候。早々頓首

十月八日

江藤大兄 侍史

修

◆一九一七年一〇月三〇日付「江藤哲蔵宛鵜沢聡明書簡」(B一九)

〔封筒表〕〔東〕京府下渋谷町赤十字病院／江藤哲蔵様／消印…□・

一〇・三〇

〔封筒裏〕〔印〕東京市京橋区築地三丁目十五番地／消印…六・一

〇・三〇

拝啓、秋色漸く酣ならむとする季節と相成申候処、貴下御病氣如何に御坐候や奉伺上候。然は貴下此度温泉療養に御出張相成られ候趣、就てハ野州塩原福渡戸和泉屋旅館ハ実直之者に有之。小生より已に御紹介申上置候間、御都合にて右旅館へ御出遊相成られ候様御勸申上候。小生も御見舞迄ニ相伺候存居候処、誠に寸暇無之有様に候間、不悪御諒察奉願上候。先ハ不取敢右申上度。時節柄精々御撰養專一に奉存候。敬具

十月三十日

江藤老兄 侍史

鵜沢聡明

◆一九一七年九月二八日付「江藤哲蔵宛松田源治書簡」(B二〇)

〔封筒表〕東京府下赤十字社病院ニテ／江藤哲蔵殿／消印…六・

九・二八

〔封筒裏〕大分市油屋方／松田源治／消印…六・九・三〇

拝啓、御病氣ニテ赤十字社病院ニ御入院被遊候由承り驚入候。御經過如何ニ候哉。充分御治療之上一日モ早ク御全快之程祈上候。

直チニ拝趨御見舞可申上筈ノ処、目下郷里大分県へ帰県致居候ニ付キ、乍失礼茲ニ以書中御見舞迄得貴意候。敬具

九月二十八日

江藤老兄

松田源治

◆一九一八年二月五日付「江藤哲蔵宛奥繁三郎書簡」(B二一)

〔封筒表〕東京府豊多摩郡千駄谷町穂田八七／江藤哲蔵殿／御直

／消印…七・二・五

〔封筒裏〕京都市上京区御幸町二条下ル山本町／奥繁三郎／電話長

式五式番／消印…七・二・六

拝啓、当府下舞鶴ヨリ峰山ニ至ル輕便鉄道敷設ノ件ニ付テハ、予算中ニ編入セラレ居候趣ノ処、右ニ関シ好都合ニ進捗可致様御配慮ヲ請ク為メ同地之有志者吉村伊助、稲葉市郎右衛門両名上京致候間、面会願出候て御引見之上陳情之趣旨御聴取被下度。尚に右ハ党勢上ノ関係モ有之候ニ付、京都支部ヨリ尾崎三勢之両幹事出京可致候間、是亦宜敷願上候。先は右迄。勿々不一

二月五日

江藤哲藏殿 坐右

奥繁三郎

◆一九一九年四月一日付「江藤哲藏宛奥繁三郎書簡」(B二二)

〔封筒表〕和歌山市／立憲政友会支部ニテ／江藤哲藏殿／御直投／
消印…八・四・一一

〔封筒裏〕京都市上京区御幸町二条下ル山本町／奥繁三郎／(電話
長式五式番)／消印…八・四・一一

拝啓、昨日ハ失礼申上候。十五六日頃当地へ御立寄之由承候。就而は
十六日当府之或ル郡部ニ必要ナル集会有之、是非キ兄之御臨席希望ニ
付、何卒万障御繰合被下、十五日夜着ニテ当地へ御立寄被下度。此段
切ニ希望仕候。草々拝具

四月十一日

奥繁三郎

江藤賢台 坐右

〔別紙〕

〔受信人居所氏名〕キセイテツドウ／シクガタイカイニテ／
エンドウテツゾウ

〔発信人居所氏名〕ホンブ

オクシヨリノセイキウニヨリ、一六ヒ、キヨウトフカタナバマチニ、
ハタシトクハ、シヨウダ、イートコロナシ、ツカエユケヌ、ホンブト
クハトシテ、ゼヒキカヲワズラワシタシ、ゴシヨウダクヲコウヘシ

◆一九一九年六月二六日付「江藤哲藏宛奥繁三郎書簡」(B二三)

〔封筒表〕東京市外渋谷町中渋谷四一四／江藤哲藏殿／遺族御中／
消印…八・六・二六

〔封筒裏〕京都市上京区御幸町二条下ル山本町／奥繁三郎／(電話
長式五式番)

家嚴御病氣之处薬石効ヲ奏セス終ニ御永眠被遊候趣痛惜ニ耐ヘス、御
愁傷之程拝察仕候。素香一炷御霊前へ御手向申上度、為替券同封仕
候。可然御斗被下度候。右謹而弔意ヲ表シ候。拝具

六月廿六日

奥繁三郎

江藤哲藏殿 遺族御中

〔別紙〕素香 奥繁三郎 金拾円

◆一九一六年七月二二日付「江藤哲藏宛小坂順造書簡」(B二四)

〔封筒表〕札幌区北二条西四丁目一／山形屋方／親展／江藤哲藏様
／消印…五・七・一四

〔封筒裏〕麻布区筭町二十八／小坂順造／七月十四日／消印…五・
七・一六

〔別紙〕

本書面十二日ニ認メ置き発信相忘れ十菊ノ感有之候へ共投函致シ候
十四日

拝啓、連日転戦御苦勞御察し申上候。扨先般病氣ニ罹り其後転宅準備

之為メ長野ニ歸リ欠勤之處、五日以來上京罷在り候。

大隈伯辭職風説ハ先般長島隆二氏ヨリ伝聞ニハ閣員辭表取纏メアリ、只後繼者寺内伯之準備ヲ俟ツノミニ有之、伯又奮起ノ念盛ナリト聞き候。之れハ国民新聞ノ記事等ノ出所ト同様ト存じ候。然ルニ去ル十日ノ夜小村侯爵ニ面会ノ処、同氏ハ平山成信氏ヨリ聞キタル所ニアレバ、去月末隈伯陛下ニ拝謁シ八十老來職ニ不堪ヘズ。何レ目下懸リノ問題ヲ片附ケバ辭任仕り度、後任ニハ寺内伯、加藤男等ナレバ可ナル旨言上セル趣ニテ、越へて六月廿九日地久節之折ニ松方侯参内ノ節御話シアリ。

又侯ハ熟考之上言上スル旨申上候。続イテ鷹司侍從長小田原訪問トナリ、山県又熟考ノ上言上ノ旨申上候。其俣トナリ居レリ。

然ルニ日魯交渉ハ未ダ完結セズ（鐵道分歧点未定）。又一方寺内伯ノ魯都行ノ問題決定セズ。サレバ今刻ニ交送スル如キハアラザル可ク、早クモ八月末頃ナラントノ話シヲ聞キタリトノリ候。目今内閣居据リト決定ノ取沙汰致シ候ヘ共、既ニ陛下ニ言上セルト陛下ヨリ元老ニ御下問アリシ事丈ケハ何レノ方面ヨリ聞ク処モ一致致シ居レバ、此俣ハ相成リ申間敷。

又一方役所ノ方事ヲ聞クニ何レモ未決濟事多キモ、之れ又内閣投出シノ準備ニハ無之哉ト取沙汰致シ居リ候。

党内ノ空氣ハ総才ヨリ一員迄皆傍觀ノ態度ニテ、靜ニ時ノ移ルヲ俟ツ方針ニテ、何レノ場合ニモ自由ノ立場ヲ得ントスルモノ、如クニ候。此際ハ之レニ越シタル策無之ト存ジ候。

寺内ノ真意ニ付キテハ兩説アリ、何レ共信ジ難ク候。

御帰京頃ニハ多少風雲動ク可きか、彼等ノ手盛八極ノ様ハ見物ニ候。勿々

七月十式日

江藤老兄 侍史

順

◆「一年一〇月八日付」江藤哲藏宛町田忠治書簡（B二五）

〔封筒表〕市内北区中ノ崎二丁目／外山氏方／江藤哲藏様／親展／消印…三九・一〇・八

〔封筒裏〕東区博労町二ノ一／町田忠治

拝復、過日御来阪ノ由、御懇書拝誦仕候。不相変琉球朝鮮等御漫遊之由、定めし種々御意見も可有之、一夕御閑話願上度候得共、十数日前より風邪にて日中■外まで強して出勤致居候得共、夜分ハ蟄居加養罷在候。

此度ハ自然拜趨仕兼候やも難斗、不惡御承引被下度、御再来之節を御待居申候。草々

十月八日

忠治

江藤老兄 侍史

◆「一年一二月二七日付」江藤哲藏宛杉田定一・横山寅一郎・西谷金蔵・磯部四郎・渡部勘十郎・長晴登書簡（B二六）

拝啓、御手紙拝誦鼻と耳御治療之趣拝見驚仕居候。申迄もなき事ながら手術後の養療は最も大切之事故十分之御治療ならん事を邦家奉祈上居候。不取敢御見舞迄、勿々敬具

十二月廿七日

杉田定一

江藤哲蔵様

横山寅一郎

西谷金蔵

磯部四郎

渡部勘十郎

長晴登

◆「」年十一月六日付「江藤哲蔵宛杉田定一書簡」(B二七)

〈封筒表〉豊多摩郡千駄谷穩田八七／江藤哲蔵殿／直披／消印…

三・一一・六

〈封筒裏〉六日／東京府豊多摩郡下瀧谷／氷川裏三七七／杉田定一
／消印…三・一一・六

拝啓、御榮進ヲ祝シ前途益々御発展ヲ祈候。敬具

十一月六日

定一

江藤哲蔵殿

◆「」年十二月二日付「元田肇宛岡崎邦輔書簡」(B二九)

〈封筒表〉衆議院にて／元田肇殿／急／若御不在ナラハ江藤君開封

〈封筒裏〉十二月廿一日／東京府荏原郡大井町字鹿島谷／岡崎邦輔

拝啓、昨日院内にて悪寒を感候故急ニ帰宅遂ニ不得、拝眉御容恕可被成下候。其節委細江藤君へ托シ置候。御聞取被下候事と存候。小生昨夜来発熱頭痛甚敷、今朝尚解熱不仕平臥罷在候。昨今多少要務可生折

柄殊ニ小川床次二氏尚一兩日登院むつかしかるへく、此際欠勤候ハ閣下ニ対シ御氣の毒ニ不堪候。不惡御諒恕奉願候。江藤氏ニも申上候今日之副議長問題可成情実を避け人物を選度しからされハ他党之投票を集め兼候。其上与党之候補者と人物ニ於て相違せる点を表白仕度候。国民党も同感ニ候。国党之議長は関なるべし「挿入…我党とせば長嶋氏を推薦仕度」、長嶋氏近来之関係故無断ニ此候補とするハ馬鹿ニ致たりとの感を与候も不妙ニ候。昨帰途病院にて横田二面会候故此意味内話し置候間、一応横田之返事御聞かせ之上御同意ニ候ハ、御発表相願度候。横田ハ築地林病院ニ罷在候。右不取敢申上度如此御座候。頓首

十二月廿一日

邦輔 病生

元田閣下

◆「」年九月二五日付「江藤哲蔵宛岡崎邦輔書簡」(B三〇)

〈封筒表〉赤十字病院／江藤哲蔵様／御付添中

〈封筒裏〉東京府荏原郡大井町字鹿島谷／岡崎邦輔

拝啓、とかく鬱陶候処、御病状如何。実ハ小生過日旅行去二十二日朝帰京承り候ハ、老臺御発病御入院との事故早速御見舞申上度存居候処、帰宅後此一兩日少々頭痛ニ悩ミ閉居静養、今日ハ是非出市先以御見舞可申との考なりしニ、尚午後二至るも氣分不勝、出席之勇氣も無之候。余り御むさたニ相成候故、即成合之粗品を呈してき兄相伺候。明日ニも出席候て、必ず第一ニ御見舞申上度と存居候。近来たひぶん御話も積り居候、やかて御快氣緩話を可得候。先ハ右得貴意度如此。再拝

九月二十五日

江藤老台 侍者中

邦輔

故、昨日総裁へハ一書呈置候得とも、為念此段得貴意置候。再拝

三月二十二日

江藤老台

邦輔

◆「一九二一年六月一日付」江藤哲蔵宛岡崎邦輔書簡（B三二）

〈封筒表〉政友会控室幹部室／江藤哲蔵殿／親展

〈封筒裏〉東京府荏原郡大井町字鹿島谷／岡崎邦輔

副啓

若出来得る義二候ハ、本日下付すへき歳費別紙委任状ニより御請取被下度相願候。又食堂之払も気の毒ニ付、御立替被成下候様奉願後刻御計算可仕候。

拝啓、小生今朝少々頭痛を感候故登院不仕、院内総務幹事長ニ此旨御伝上奉願、午後の本部之会ニハ是非参会可仕心得御座候。頓首

六月十日

邦輔

江藤先生

◆「一九二一年三月二二日付」江藤哲蔵宛岡崎邦輔書簡（B三二）

〈封筒表〉政友会本部／江藤幹事長殿／親展

〈封筒裏〉三月二十二日／東京府荏原郡大井町字鹿島谷／岡崎邦輔

拝啓、益御清光奉賀候。陳者、今日午後総裁邸へ参会可仕筈、昨日より悪寒を感じ朝来尚未快氣を不得候故、今一日静養仕度候。此段可然総裁御邸へ御伝へ奉願候。報告書ハ兼て大体を承り居候故、御相談の結果御取極め被下候て更ニ異議無之候。会合ハ昨日午後と誤認し居候

◆「一九二一年二月六日付」政友会幹部宛岡崎邦輔書簡（B三三）

〈封筒表〉必親展／政友会幹部／御中

〈封筒裏〉十二月六日／岡崎邦輔

拝啓、益御清光奉賀候。陳は今夕幹部之諸君御催ニて内閣之諸公を御招待被成候趣、時節柄尤も重要之事ニして必ず有益なる結果を可得と拝察致候。此機会ニ於て小生も簡單なる鄙見之一を申上置度候。抑も現内閣ハ世人目して政友会内閣と申居候。閣員悉く政党员ニあらざるも、我党総裁之内閣なれハ此名称あり。固より其処なるべく之れ正敷我党之隆運を証すると同時ニ、其将来之消長も懸て此ニありと存候。斯く我党之責任重大を加へ候ニ就てハ益政党を改良し、穩健ニして智識ある大政党たらしめざるへからず。穩健ニして智識ありて健全なる大政党たらしめんとするニハ種々之方法可有之候得とも、小生ハ先其捷徑として此際軍職以外之内閣諸公之入党を勧誘致度候。此事ニして断行せられん。従て智識経験ある才能之士、雲之如く来て入党せんこと日を期して可待候。於此か政党勢力上一新面目を開き、従て憲政之美をなす益大なるを得べくと存候。小生近來窃ニ憂る処之もの有之、此事を思ふ最も切なるものあり、幸ニ今夕之御会合を機とし鄙見申上試ニ御同感ニ候ハ、諸公へ御勧誘被成下度候。或ハ此際諸公之入党ハ、却て一派之反感を招くものなりと論するものあり。之れ畢竟時勢

を不解之迂説固より顧るニ不足候。思ふニ賢明なる諸公立憲之美をなすニ急なる、必ずや入党吾人を指導せらるゝニ恪ならざるハ信せんと欲する処ニ御坐候。今夕御会合前鄙見親敷拝陳致度処、朝来俗用寸隙を不得是ニ呈一書高教を仰候。書余拝青萬々可申上候。頓首拝

十二月六日

岡崎邦輔

政友会幹部 御中

(同封) 新聞切抜 (「政友会内愈々多事」『国民』一九二一年二月一六日)

◆一九二三年一月五日付「江藤哲蔵宛岡崎邦輔書簡」(B三四)

〈封筒表〉 通信省江藤参事官殿／親展／消印…二・一一・五

〈封筒裏〉 つきじ明石町六二／岡崎邦輔

拝啓、益御清光奉大賀候。陳は、此ほどハ御任官被成候趣新聞上にて拝見御よろこび申上候。党中之若手をして振氣一番せしむる之因とも可相成、老台としてハ御迷惑拝察候得とも、我党之為め充分御尽力奉願候。拝眉御よろこひ可申上候得とも、不取敢右得貴意度如此御座候。頓首拝

十一月五日

邦輔

江藤老台

◆一九二六年一月二〇日付「江藤哲蔵宛岡崎邦輔書簡」(B三五)

〈封筒表〉 大坂堂島自由亭／江藤哲蔵殿／親展／消印…□・一二・二〇

〈封筒裏〉 東京芝公園本部にて／一月二十日／岡崎邦輔

拝啓、新年早々拝眉之機を失候為め更ニ御近状を不存候処、老台之御顔出しなきハ全く嶽父君御逝去之為めなりと承り、驚愕ニ不堪候。迂遠なる老生外山君と御縁族との事も始て承り候ほどのことにて、如何ニも御恥かしき次第ニ御坐候。先日大坂にて或記者参り、老台自由亭ニ御止宿と承り候得とも、これハほんの御通過之一泊と存候。小生前後御帰京ならんと存心ニも留めずうち過候。今にして思えば其時ハ恰も御看護中ニ被為入候事と存候。御見舞も不申上恐縮多罪御容恕可被成下候。茲二年延引御悔旁御申訳迄如此御坐候。頓首拝

一月廿日

邦輔

江藤老台

令夫人へよろ敷御伝奉願候

◆一九二六年八月二日付「江藤哲蔵宛岡崎邦輔書簡」(B三六)

〈封筒表〉 大坂中之島二一ノ内外山君ハ氣付ケ／江藤哲蔵殿／親展

／消印…五・八・二二

〈封筒裏〉 八月廿一日／東京府荏原郡大井町字鹿島谷岡崎邦輔／消

印…五・八・二三

近啓、寺内伯転末を時事紙ニ発表、しかし其方法不良之為め広く新聞ニ転載せられず遺憾之事ニ候。夫故此件に就ては最早火の消たるか如し。只山県対大隈之間ニ於て未鎮火之模様ニハ候得とも、思ふニ例之老人官僚一般之慣手段テキパキ致候事ハある間布。結局水中放屁之類に終らされは幸ならん。鄙考ニハ、官僚等ジタバタ致し乍ら目的を達

せざる中ニ彼是議會之近き候は、当年之議會ハ面白き波瀾を見るを
可得かと窃ニ樂居候。何分世見今回之大隈之処為ニ就て憤激するもの
多きは、誠に痛嘆すへき次第二候。小生近日山県公を訪問し、其実況
を承りて申と存居候。

(後文)

拝啓、大暑之時節殊ニ浪宅ニ於る御病臥さそ御難渋と拝察仕候。初め
ハほんの御当分之事僅に一二日ニて御快氣御帰京と相待居候処、再度
の御電報ニ拝接不順之折柄誠ニ御案し申上候。其後之御経過如何候哉
伺度候。実ハ北海道之後始末も多少有之歟ニ承り候。ほつ／＼壁訴訟
的に今度之旅費ハ不足ニて、多少補助を要すへき様子。しかし右は尊
兄御帰京を待ち何とか申出んとするもの、如く、其上島根之選挙に就
て昨日園山〔勇〕老人上京、支部代表之意味。今日ハ恒松上京之趣、
皆本部之島根ニ対する決心之ほとを聞かんとするもの、如く。支部之
意向ハ本人五千〔円〕を覚悟せしめ、其余ハ本部之力ニ依らんとする
もの、如し。本人の覚悟果し〔て〕如何可有之哉。右等ハ今朝総務を
会し協議候積り、とふかこふか相応之眼鼻をつけざるを不得候。此際
ニハ不在甚不自由を覚候得とも、之亦無拠の義に付、当分一切御放念
十分御加養奉願候。今朝協議之上幹事一人盛岡ニ遣し可申歟と存居
候。先ハ御見舞旁御近状伺度如此候。頓首

八月廿一日

江藤老台

邦輔

◆一九一六年八月二日付「江藤哲藏宛岡崎邦輔書簡」(B三七)

〔封筒表〕江藤哲藏殿／親展／消印…五・八・二二

『江藤哲藏関係資料』翻刻(一)

〔封筒裏〕八月二十一日夜／二十二日朝発／消印…五・八・二三

拝啓、御病状如何と憂患罷在候。今朝一書候と行違ひ尊書拝接御近状
を詳にし、追々快氣之趣稍安心仕可し、大暑中之発熱ハ痛く身体を疲
勞せしむるもの二候ハ、豫後御大切祈申上候。尊書中島根ノ件御心
配之趣、縷々御垂示御尤ニ存候。実ハ小生も老兄ノ此際ノ御病氣頗る
閉口、殊ニ総裁留守中萬事不自由を感候件、これも致方なしと出来得
る限りニ処理仕らせ置候。御心易ニ思召可被下、一昨日電報ニ而恒松
と決定ノ旨申来。昨日園山上京其陳状承候処、同県としてハ恒松を奮
発せしむるより以上之候補無之候得とも、同人も兎角奮發致兼候内情
も有之候処、同志中勧告之無余議にほたされ漸く決心為致候。しかし
同人ハ漸く五千円丈用意致候得とも、此以上ハむつかしく強而求むれ
ハ候補を辞せんとする模様ニも有之相見候故、此上ハ是非共本部ニ而
引受呉度。しからされハ反対之なすか俟ニ任する外なし。尤も反対之
強敵相顕れ不申候ハ、本人用意之分ニ而事足候得とも萬一強敵相顕
れ候時ハ、同人独力之及ふ処ニ無之云々申出候。其求むる処之金高承
り、今七千円位ハ少くも用意を頼と申出候。

尚今朝恒松上京候処、夫れと同時に反対より強敵遠藤嘉右衛門と申候
嶋根第一流之資産家にして、早大出身しかも性質突飛之ものなるよ
し。ケ様なる人物故、一步踏込候時ハどれほど金を使用候かわかられ
ざるもの由ニ而、一同少し避易之氣味ニ候。其中恒松親族よりハ強敵
顕れ候以上ハ断念セよ、との電信も続々来り。一時ハ痛く躊躇せしめ
候処、園山嶋田等之強き忠告、又本部ニ而ハ望月をして観説為致候結
果、漸くにして一番奮發致候事と相成候。

期日ハ本日三日と申遠路ニも有之、今より種々準備候而も長野県之如
く実地ニ臨ミ、応援往復電話交渉等之便宜も無之候間、何事も今日決

定。おそくも本人等明夕出發せしめざるへからず、總裁二相談候猶豫も無之。今日総務会相開き、三人責任を以て三千円支出候こと、し、十分本人へ油をかけ激励候処、本人等本部へ罷出候感激是非共奮戦すへき旨誓言仕候。從而各地方へ遊説隊を繰出し候旨、右ハ明日追嶋根連相談取纏、本部へ申出其上協議之筈ニ候。特ニ岩見之注文として床次氏にへも遊説を乞ひ、同氏も快諾致呉候折柄、尊書ニ而奥氏ノ御注意感謝。明日本部へ集り相談、同氏を煩し候様相成可と存候。

幹事達又島根組ニも、北海道之例ニより一人之頭領出張必要と申居候折柄ニ候。しかし其出張司る処、北海道之夫れ之如く権力あるものニハ無之。其実際如何可有之哉と存居候。其問題も昨日ハ宿題として決定し居らず趣、方々今日相談可仕候。今度ノ速断ちと總裁之旨と違ひ候かとも心配仕候得とも、盛岡迄往復せしめ同意ならば運も可也候得とも、萬一異議ニ而も有之候ハ、更ニ往復を重候事もでき不申。蓋し専断致仕置候方、埒明可申との愚意之外ならず候。要するニ拙連を尊ひたるニ外ならず御審察可下候。此際老兄ノ御不在、返す、も遺憾ニ候。時下御自愛為邦家祈り上候。草々頓首

八月二一日夜

江藤老台

邦輔

◆一九一六年九月三日付「江藤哲藏宛岡崎邦輔書簡」(B三八)

〈封筒①裏〉東京芝公園／政友会本部／江藤哲藏殿／親展／消印…

五・九・三

〈封筒①裏〉九月三日雲州松江皆美館／岡崎邦輔／消印…□九・五

〈封筒②表〉江藤老台

〈封筒②裏〉封、邦輔

拜啓、拜別後二信も不申上失敬御容恕可被成下候。可申上事柄なきニハあらず大ニ有之候得とも、処詮書面にてハ難尽か故ニ御坐候。此問題ハ帰京之上と御承知置可被成下候。

さて床次君初諸君ハいつれも各処ニ出張し、此戦を我物として山間不便之地ニ迄も転戦突進、而して各方面共総て攻勢ニ出、彼之多数応援を以て佐け居候。反対党をして防禦ニ勞せしめたるハ近来之愉快事ニ候。其結果今朝来談、来報支部之直轄する能義八束簸川等之各郡之景勢、先以予定之如く相運候もの、如し。特ニ反対候補之立御地ニ向ひたる秦軍之勇猛なる突撃ハ、遠藤をして一驚を喫せしめ候もの、如く。只今其形勢電話聞合候処、凡予定之奏功せる模様ニ候。石州方面其他ハ恒松直轄にして太田之本部を開き有之。恒松より先刻承る処ニよれハ、総て予定之如くにして昨朝来何等異変を感せされハ、先大丈夫ならんと申居候。今朝申上候如く、同人頗る元氣にして何人も憂色を顯ハさ、る処大ニ頼と致居候。反対之例之悪手段ニても有之候てハ大変と余程注意候趣ニ候得とも、昨夜(此近郡)何等影響を蒙らざるハ少意外と致居候ほとニ候。只今之模様ニよれハ恒松万歳ならんと被存候。

何分不便之地方明後日ニあらされハ、確乎たる報告を聞く能ハすとの事ニ候。小生昨朝出發途中二泊にて帰京可仕、委細之選挙中之様子ハ床次君初御帰京之先生より御聞取奉願候。広岡君昨夜床次小久保両君今朝帰途ニ就かれ候。赤尾君只今此地ニ来員、秦君今夕帰来突撃之形勢を聞くべく相参居候。古谷君今ニ沙汰なし、恐らく長州へ出て已ニ帰途ニ上られたるならん。今度出張遊説せられ候諸君ハ、暑氣之時分其上悪疫之地方へも遊説せられ、実ニきのとくニ相感候。殊ニ床次君少風邪之趣ニ候。諸君帰京せられ候て厚く御慰勞被成下度候。小生

山陰之風景ニ接したるハ初二て甚めつら敷相感候。殊ニ松江湾沃し風色、皆美之料理、雲州之双美とも可申、只ニ雲州ニ無之恐らくハ山陰無比之ものと感服仕居候。書余其中拝眉可申上候。草々頓首

九月三日

邦輔

江藤老台

總裁ニハ別ニ御恵書せず、總裁総務、此旨御伝達奉願候

◆一九一八年二月二日付「江藤哲蔵宛岡崎邦輔書簡」(B三九)

〈封筒表〉中渋谷四百十四／江藤哲蔵殿／親展／消印…七・□・二二

〈封筒裏〉十一月二十一日／岡崎邦輔／消印…七・一一・二二

拝啓、御帰京後未得拝眉遺憾ニ候。若横浜祝賀会ニ御出向ニ候ハ、午前弊寓へ御立寄被下間布哉。横浜へハ同伴可仕其前一寸拝話を得候ハ、幸甚ニ御坐候。頓首

十一月二十一日

◆「一九一一年一月一九日付「江藤哲蔵宛徳富猪一郎書簡」(B四〇)」

〈封筒表〉小石川麴町九東■■■■／江藤哲蔵様／消印…□・一・一九

〈封筒裏〉青山／徳富猪一郎

啓上、竹村氏小説ノ原稿料ニ付、書肆より問合せ来候処如何或ハ売上後の勘定と可致哉。何分貴答折り返し奉伺候。以上

十九日

猪一郎

江藤大兄 貴下

海野大地 (京都府立京都学・歴史館 学芸員)
斎藤仁志 (石川県立歴史博物館 学芸員)
十河和貴 (北海学園大学 法学部 准教授)
木多悠介 (本学衣笠総合研究機構 専門研究員)
伊故海貴則 (北海学園大学 法学部 講師)
俵木大知 (上越市歴史博物館 学芸員)
那波宏哉 (本学大学院博士前期課程修了)
桂淳志 (本学大学院博士前期課程)
中村凌太郎 (本学大学院博士後期課程)
水谷春都 (本学大学院博士前期課程)